

心の底から感謝の気持ちで

山陽小野田市立高千帆中学校 3年 古谷 隼



「もう塾終わったけど迎えまだ？何してるの。寝ていたの？すぐに来て。」
母に電話をかけるのを聞いていた塾長は、すぐさま電話をかけていた。

その直後、

「隼、歩いて帰れ。」

電話の相手は母だった。

「お母さんは隼のために働いて疲れている。その疲れた体にムチ打って、
隼を迎えに来てくれるんだよ。さっきの電話の隼の口のきき方はおかし
くないか？」

「歩きながらよく考えてみなさい。」

塾が終わって母が迎えに来るのは日常の出来事。

しかし、それは決して当たり前のことではないのだ。

忙しい中、野球の試合の時には朝早く起きて、手作り弁当を作ってくれる母
に本当に

「ありがとう」

と感謝の気持ちを持っていただろうか。

泥だらけになったユニホームを風呂場に置いておくと、翌朝には、真っ白な
ユニホームが玄関にきれいに並べて置いてある。

「行ってきます。」

私は学校へと、何もなかったかのように向かう。

「行ってきます。」の前に、「ユニホームありがとう。」の一言がなぜ出なかつた
のだろうか。

私はいつも多くを語らず、私のことを暖かく見守ってくれている母を尊敬し
ている。

塾から歩いて帰っていると母はいつもと同じように、「よくがんばったね。
寝坊したから塾長に怒られたね。」と私を責めるのではなく、自分を悪く言う
母の心の広さと比べて、“ありがとう”の一言も言えない自分の姿が恥ずかし
く見えてきた。

塾長の歩いて帰りなさいという言葉の裏には、“当たり前のことを当たり前
だと思わずに、感謝の気持ちを大事にすることが大切なのだ”ということが
含まれているのではないかと感謝している。

今はコロナ禍の中、日本経済は大きく揺れている。

コロナウイルスの影響で、長年続いていた店を閉店したり、仕事を失った方の苦しい姿をテレビで見る。

今まで当たり前であった日常が影をひそめ、生死に関わる大きな社会問題となっている。

コロナウイルスと必死に戦っている医療従事者の方は、自らの命をかけて精神的にも肉体的にも疲れきっている。

そのような方への誹謗中傷するようなSNSの書き込みも少なくないと耳にする。

SNSの書き込みに耐え切れなくなり、若くして命を失ったスポーツ選手の事が報道されていたが、これは他人事ではない。

SNSは中学生も多くやっているが、目に見えない言葉の暴力は立派な犯罪であると思う。

私達は、基本的人権の尊重という憲法の柱の1つでもある人権を保障されている。

人権が保障されているからといって、何をやっても良いということではない。

コロナウイルスで苦しむ私達に少しでも生活の足しにと日本政府より一律10万円が支給された。

厳しい生活を余儀なくされている国民にとって心から感謝すべき政策だと思うが、ごく一部の、感謝の気持ちを持っていない心の狭い者による、コロナ詐欺という犯罪に手を染めてしまう事例もある。

弱い者の不安や苦境につけこんだ許し難い犯罪である。

ネット社会が進み、犯罪も高度かつ、複雑になっている。

サイバー犯罪などは今後、減ることはないと思われる。

他人事ではなく明日は自分の身に起こるかもしれないことを、しっかりと認識しておくことが大切である。

ちなみに私の家では、家族みんなの話し合いにより、コロナで苦しむ方、災害で苦しんでいる方へ寄付をしていこうということになり、わずかな金額ではあるが、募金箱へ寄付をした。

私は新品のグローブを購入しようと考えていたが、家族会議の決定には従わなければならないという半ば諦めの気持ちと、コンビニへ行き、募金箱へ私のお金が入った瞬間の満足感の両方が入り乱れていたが、今、こうして私が大好きな野球が出来て、高校に入るために何の不自由もなく学習する環境が与えられていることに、感謝の気持ちを持たなくてはならないと感じている。

薬物乱用、あおり運転、窃盗、暴走族による危険運転・・・これらの記事を

ニュースで目にしない日はないといっても過言ではなく、私達中学生も十分加害者となる可能性もあると考えておかなくてはならない。

全ての犯罪に共通して言えることであるが、勇気と感謝の気持ちがあれば、これらの犯罪に手を染めることは絶対にないと確信している。

そのためにも、普段から家庭内で今抱えている問題を、声に出して話し合うことが大切ではないかと思う。

そして、今生きていることは当たり前のことではなく、多くの人によって支えられて成り立っていることに感謝する気持ちを決して忘れないでおくことが重要である。

決して、非行に駆り立てる社会的環境に、責任転嫁してはならないと改めて考えさせられた。